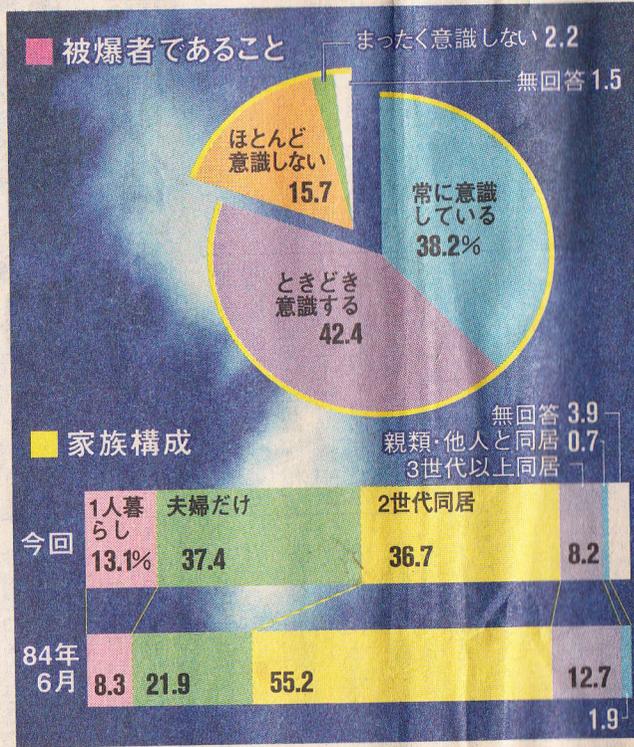




結の「慰霊の日」に
追悼式
仁の平和祈念公園)

「被爆者を意識」8割

小家族化 募る不安



調査は、全国の被爆者三十二万八千六百二十九人(三月末現在)の三割弱、九万八千四百七十三人が集まる広島市で、被爆者健康手帳を持つている千五百人を想定対象として六月下旬に実施。千二百二十八人から回答を得た。

被爆者であることの意識度は、「常に」との答えが

調査は、全国の被爆者三三八・二%に上り、「ときどき」四二・四%を合わせると八〇・六%。一九八四年に中国新聞社が実施した前回調査に比べ、「常に」と「ときどき」が逆転したものの、両者の合計は二二・二%増えた。病気がちの人では九三・九%に達し、心と体に深い傷跡を残していることを物語る。

「こうした意識を反映し、核兵器廃絶への強い願いが調査の端々ににじみ出た。米スミソニアン航空宇宙博物館の被爆資料展示計画で再燃した原爆投下の是非については、五六・五%が「どんな理由であれ、投下すべきでなかった」、二〇・〇%は「非人道的な行為で許せない」と明確に否定。「や

投下「否定」4人に

原爆投下から半世紀を生き抜いた被爆者の八割は、今なお自分が被爆者であることを意識している。社は広島市内に住む被爆者の実態・意識調査を実施した。被爆を認識する姿が浮かび上がるとともに、でなかったと明確に否定した。核兵器が将来使われるとの危機感を抱く人も少なくない。一人暮らしや高齢化に対応した施策を求める声は切実である。

ヒロシマ50年 被爆者実態調査

中国新聞

発行所 広島市中区土橋1号 郵便番号 中国新聞 電話(082)236-2111(受付) 郵便振替口座 01370 ©中国新聞社

新発売

西施の頻卓

主な記事

「ら抜 ヤク

「平和の礎」に祈り

沖繩戦終結50年

質問

ときどき意識するほど意識しない(「常に意識するだけ」意識する健康がすぐれない将来の生活を考慮被爆や核問題など)

を書いた。%。世代に体験を話 五十歳以上は多くて 九歳以上の広がり 存を求む。反核・を文章 た人は五・ といっ は五二 この 訴える